

単P研修ってなに？

PとTで始める研修

平成30年度「みんなで学ぶPTA」単P研修分科会資料

1 単P研修ってなに？何を学ぶの？

★単Pとは？

世田谷区立小学校全校のPTAから組織されている連合体を「世小P」といい、それぞれの学校のPTAを「単P（単位PTA）」といいます。

★単P研修と家庭教育学級のちがい

単位PTA研修（単P研修）は先生と保護者が、「学校という場面での教育」について、どのように子どもを育て、支援し教育していくかを共に考える場です。つまり、教育内容や学校への理解を深めたり、先生方と交流することで、一緒に課題を見つけ、共に考え、解決していく機会です。家庭と学校の役割を明確にし、それぞれの責務と可能性を再認識することも必要かもしれません。

一方、家庭教育学級は、「親」として育つ場であるといえるでしょう。趣味活動や楽しみに終わることなく、自分の家庭における子育てや教育に生かせる内容を、意図的に学習することを目的としています。

★単P研修の充実が「よい学校づくり」の秘訣

学校を知り、理解が深まることで、目の前にある課題が見えてくることもあるでしょう。課題や問題がないのが、良い学校・良いPTAではありません。課題や問題を「いかに解決していけるか」が問われているのです。その意味でも、単P研修は「課題解決」への第一歩であるといえます。

学校への不満・不安解消も、PTAの円滑円満な運営も、まずよく「知ること」から始めることが必要です。すなわち、普段から〈先生と保護者〉〈学校と保護者〉そして〈保護者同士〉がよく理解し合い、「信頼関係」を築くことが課題解決のカギとなるのです。そういう関係づくりを平素からしっかりしておくことも、PTAの役割の一つであると思います。

いろいろなテーマや講師のもとで学び合い、話し合い、実践していく場は、私たち親にとっても貴重です。こうして、日ごろから共通理解をもち、協力体制がとれている学校は、問題も起こりにくく、問題があっても、皆の力で乗り越えることができます。

★「学校と家庭の連携」ってなんだろう？

基本はむずかしいことではなく、意外と単純なことではないでしょうか。

たとえば家庭で、子どもが人の話を聞く、他人を大切にするという基本的な態度がで

きていなければ、学校での教育はなりたちません。反対に、いくらその子にやる気があって、思いやることができる子でも、学校での授業がつまらなかったり、友達や先生との関係がうまくいかなかったりすれば、その子はよく育ちません。学校と家庭で、同じことをめざし、同じことを伝えていかなければ、子どもに力はつかず、混乱するばかりです。先生と保護者が共通理解の下、それぞれの視点から子どもを見つめ、子どもたちの生きる力を育んでいくことではないでしょうか。

2 どうやってするの？単P研修

★単P研修会は何のため？

単P研修は関わった人、一人ひとりのものです。一人ひとりが学ぶことで、PTA活動がより豊かになり、それが子どもたちに生かされます。自分自身や子どもたちのために研修があるのです。

★決まった形はあるの？

決まった形や、やり方はありません。4月から翌年3月までの間で、自分の学校に合った時期、回数、形態などを選んで行います。そのために他校の研修を知ることも有効かもしれません。もちろん、試行錯誤の結果、到達した最善のやり方で例年行うところもあると思います。

また、秋に行われるブロック研修会は、単P研修の到達点ではありません。その後の単P研修のきっかけとして活かしていただきたいと思います。

★どんな意味があるの？

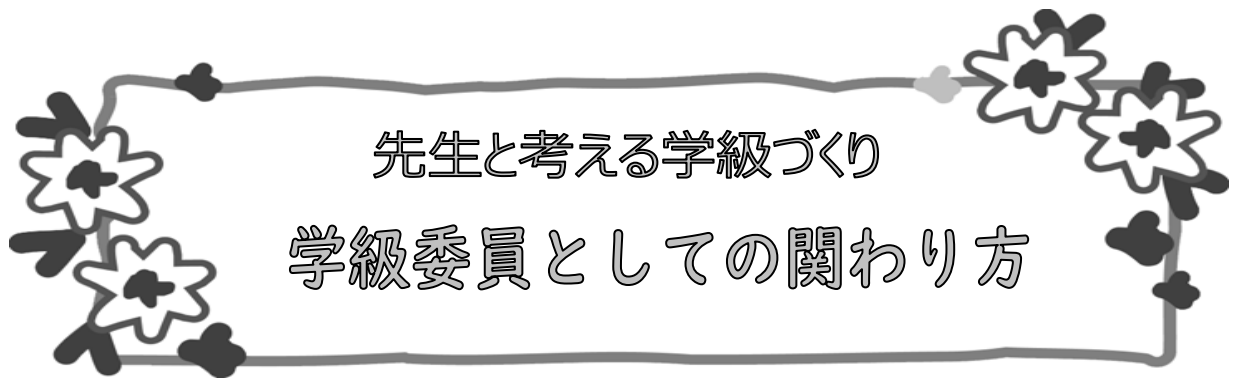
単P研修で一つのテーマを深めていくことにより、自分の固定観念が変わり、新しい視点でものが見えてくることもあります。保護者同士、あるいは先生の意見を聞くことで、自分の子育てや学校の教育を考えるきっかけとなることもあります。子どもについて考えなければならないことは、山ほどあります。皆で話し合い・考え合うことで、視野が広がるはずですよ。

★迷った時は「原点に戻る」・・私たちは何を望んでいたの？

あれこれ真剣に議論を進めていくと、壁に当たることも多くあります。ついつい当初のねらいや全体像よりも、些細なことや現実的に発生してくる諸問題への対応に、次第に気を取られていきがちです。そういう時は、どの段階であっても「原点へ戻りましょう」。「私たちが一番大切にしたいことは？」、「一番のねらいや目的は何か？」そこを明確にし、皆で確認し合い共有すれば、必ず先が見定められます。異なる意見を一つにまとめていくのは大変ですが、皆が納得のいく、本当にやりたいことを、やってよかったと思う形にすることこそが、すばらしい学びのプロセスなのではないでしょうか。

思い切ってやってみましょう！

困った時は世小Pにご相談ください。



先生と考える学級づくり

学級委員としての関わり方

☆学級PTAの関係性づくり——先生と保護者・保護者同士

- ・関係性の上にコミュニケーションがあり、コミュニケーションによって情報が伝わる
- ・情報が伝わりやすくなると、先生の学級運営・学習指導方針に対する理解が生まれ、保護者も家庭や学校で協力していくことができる
- ・情報が伝わりやすいと、問題がこじれる前に話し合いで解決する事もできる
- ・子どもの後ろには親がいる。子ども同士は親同士
- ・子どもにとって、良い学級の環境が作られ、より良い心の育ち・学習活動につながる

Ⅱ. コミュニケーションづくりのさまざまな方法

☆保護者同士

- ◇ 顔・名前を知る・声を掛け合う・知り合うことが大切
- ◇ 保護者会欠席者へのフォロー（情報伝達）
→いつも欠席の人にも働きかけていこう
- ◇ 顔を合わせる機会を作る→仕事をしている人も参加できる機会を作ろう
親睦会・茶話会・スポーツ大会などの開催



☆先生と保護者

- *先生と保護者、お互いの思いが伝わりやすくなるように工夫しよう
- ◇ 学級委員になったら先生にご挨拶に行き、連絡方法を確認する
- ◇ 保護者会で協力できることがないか、事前に打ち合わせをする
- ◇ 保護者同士親睦を深めていく中で出た話題を、先生にも共有していただく
- ◇ 先生の指導方針を知り、保護者が協力できることを考え、前向きに話し合える関係を作る
- ◇ 連絡網が機能するよう工夫する

相違ある考えや意見を十分に出し合える場や機会のセッティングのため

の調整役

☆学級と学校

- ◇ PTA全体の動きを各クラスに伝える（運営委員会との橋渡し）

◇ 学校をよく知ってもらおう工夫をする（学校関係者評価に繋がる）

⇒学校に行こう！学校に興味を持とう！学校行事に参加しよう！学校を評価しよう！

とつながるような活動の工夫

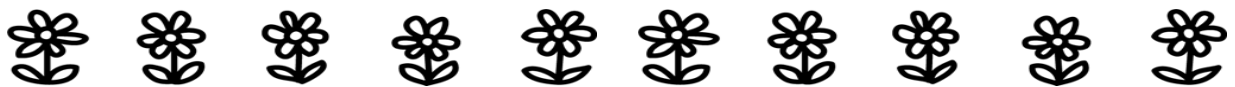
みんなの貴重な時間を大切にするために事前に準備して

おこう！

そして・・・

☆「できることからやってみよう」という、元気で前向きな気持ちを持つ

- * ひとりで抱え込まない（自分ひとりで解決しようとして深入りしない）
- * 情報を正確に把握する
- * クラスの他の委員（文化厚生、広報など）との連携
いつでもまわりのみんなに「手伝って」と言えるような学級づくり
- * 聞き役になる（注：良識を持って情報を扱う）
風通しの良い学級づくりのムードメーカーに！
- * 責め・糾弾の姿勢（これだけはやめよう！）はとらず、解決するために協力していく
- * 日頃からの信頼関係を大切に（担任の先生と・保護者同士）





平成 30 年度「みんなで学ぶ P T A」役員分科会資料

♪♪ 役員の役割とは ♪♪

- ♪ 方向性を決める……………活動の方針や方向性を決める・理念を持つ
(事務的な処理だけに終始しない)
- ♪ 会員の声を伝える機能……会員の意見の集約・提言
- ♪ 会員の意識を高める……………PTA 活動への参加意欲を高める工夫をする
- ♪ 会員の活動を評価する……………マイナスの「反省」ではなく、活動の「成果」を確認し、
皆で共有できるように努める
- ♪ 会員の親睦を促進……………皆が仲良く支え合い助け合う組織作りを心がける
- ♪ 学級 P T A のサポート……………学年・学級委員を中心に、文化厚生・広報委員など、
各委員も学級 P T A の運営にあたることを意識して助

言する

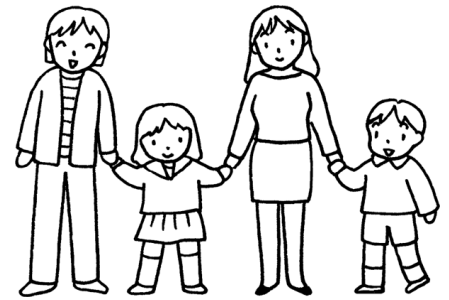
- ♪ 環境整備……………各委員会や係が活動しやすい体制を整える
- ♪ 調整役……………学校や委員会間、地域等との連絡調整役
- ♪ 情報の伝達役……………校内・校外からの情報を整理して、会員に伝える

♪♪ こんな事を前提に ♪♪

- ① 「なんのためにするのか、目的は何か」——「目的」を明確にする
♥役員会や運営委員会で意見が分かれたとき、問題をこの原点に戻す
- ② 「こういうことを皆で考えたね」「こういうことをした」「こう変わった！」
♥役員・各委員会の活動を皆で「たたえ合い」、成果を確認し合い、「共有」する工夫を
- ③ 学校とは「ほうれんそう」《報告・連絡・相談》でいい関係を保つ！
♥つねに「P と T の組織である」ことを忘れずに
♥学校、先生の意向や状況も尊重し反映し、こちらのこともしっかり伝える

♪♪ 基本原則—「だれでも参加できる P T A」づくり ♪♪

- ♪ 「やってよかった」と思える活動を支援する！
- ♪ 「自分のスタンスで活動できる」という安心感
- ♪ 気分的な「重荷」を負わせない工夫



そのためには・・・

① PTA活動は何のため、目的は？の原点に立ち返る

② 《自分たちで考え、作っていける》という認識を持つ

・「こうしなければならない」「こういうやりかたでなければならない」ということ
はない

- ・新しいものを取り入れていける雰囲気を作り、「今まで」にとらわれすぎない

③ できる時に、できることを

- ♪ 「家庭が第一」という共通認識を持つ

- ・それぞれの状況や都合を尊重し合う
- ・相手の立場を認め合う姿勢

…そして、共有する時間を大切に



- ♪ 「無理をしない」

- ・無理をすると、みんなも自分もつらくなる

- ♪ 「分担し、補い合う」

- ・必ずしも「みんなが同じ仕事量」でなくてよい
- ・助け合える雰囲気を大切に

④ 自分の学びと育ちの場にする

- ・使命感、やらされ感からの解放

⑤ 「感情的」なものに注意！

- ・感情的なトラブルは、「防ぐ、のらない、あおらない、入らない」

⑥ 「失敗してもいい」「とにかくやってみよう」

- ・まちがったら「修正する」「きちんと謝る」
- ・失敗して気づくこともたくさんあるはず！反省を次に活かしましょう

どの活動も基本的には、事前に必ず学校と相談しましょう！！

[例：情報の誤り、プライバシー侵害など、後から問題となることもあります]

